

報 告

育児書など育児情報の利用状況

松 本 昌 子

〔論文要旨〕

東京都内の子育て中の親を対象に、育児書など育児情報の利用状況を調査し、328人から回答を得た。育児情報として信頼されていたのは、育児書、新聞、育児雑誌などであった。育児書を読んだ者は84.5%、そのうち55.6%が読んで安心して読んだ内容は、病気やけがの対応76.9%、世話の仕方52.0%、発達のめやす48.7%の順であった。育児書どおりにやってみようと思った者は68.5%、うまくいかなかった者は自然に任せる、自分流にやってみるなどと対処していた。多くの親は育児書を上手に利用していたが、4.3%の者が読んで不安になっていた。また育児書を読んでも安心できない者に子どもが順調に育っていると思えない者が多く、この中にはいねいな支援が必要な親がいると考えられる。

Key words : 子育て, 育児情報, 育児書, 子育て支援

I. はじめに

育児書の研究は、発行数や書名、記述されている内容（指導記述の比較や変遷など）等、育児書そのものを研究したもの比べて、利用する立場からの研究は少ない。しかし、事故防止の情報源として、新聞・テレビ・育児書を70%以上の母親が活用していたという報告や¹⁾、子どもの疾病や看護方法について学習した保護者のうち63.3%が育児書・育児雑誌で学習していたという報告²⁾がみられ、育児書は子育て中の親に活用されていると考えられる。本研究では、育児書など育児情報の利用状況、有用性を調査し、その結果から子育て支援のあり方を考えたく、子育て中の親を対象とした質問紙調査を行った。

II. 対象と方法

東京都内の幼稚園2ヶ所の園児347人、保育園5ヶ所の園児389人、子育て支援事業の利用者44人の合計780人の保護者を対象とした。各

施設で調査票を配布してもらい、幼稚園は郵送により回収、保育園は回収箱を置いて回収、子育て支援事業利用者はその場で記してもらい、回収した。調査期間は、2003年8月25日～9月15日で、調査内容は以下の通りであった。

1. 属性・背景など

子どもの年齢、性別、出生順位、家族構成、記入者の年齢、育児に対する不安、現在の体調、子どものことで心配なことの有無、内容、保護者の判断による子どもの発育状態など。

2. 利用する育児情報と相談相手

育児雑誌、育児書、ビデオ、インターネット、新聞、テレビ、ラジオ、パンフレットの8つの育児情報の利用とその有用性、信頼する情報の順序、育児に関する相談者とその相談結果など。定期的に発行されているものを「育児雑誌」とし、育児書と区別した。

Circumstances of Use of the Child Care Information Such as a Child Care Book

[1946]

Yoshiko MATSUMOTO

受付 07. 7. 2

金沢医科大学看護学部（保健師/教員）

採用 08. 2.21

別刷請求先：松本昌子 金沢医科大学看護学部 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

Tel : 076-286-2211 Fax : 076-218-8412

3. 育児書の活用

育児書の所有の有無と利用状況、読書後の感想・子育てに対する気持ちの変化、利用の仕方、育児書どおりにやってみた経験と結果、育児書どおりにやってみてうまくいかなかった時の対処など。

4. 子育てをしながら、感じていること

自由記載で、最近の子どもの様子、子どもと接しながら発見したこと・感じていることなど。

Ⅲ. 結 果

回収できたのは、幼稚園108人（回収率31.1%）、保育園188人（同48.3%）、子育て支援事業利用者32人（同72.7%）、合計328人（同42.1%）であった。

1. 属性・背景など

対象となった子どもの年齢、性別、出生順位を表1に示す。回答の記入者は92.7%（394人）が母親で、その65.3%（214人）が30代であった。無回答を除くと82.6%が親と子の二世帯で構成された核家族であった。

記入者の育児に対する不安は、かなり強い10人（3.0%）、強いほうである76人（23.2%）、あまりない191人（58.2%）、ない21人（6.4%）、無回答30人（9.2%）であった。記入者の体調は、良い226人（68.9%）、悪い34人（10.4%）、

無回答68人（20.7%）であった。不安がかなり強い・強いほうであると答えた86人中18人（20.9%）は体調が悪いと答え、不安はあまりない・ないと答えた者に比較して有意に多かった（ $p<0.05$ ）。

子どもについて心配なことが、ある157人（47.9%）、ない137人（41.8%）、無回答34人（10.3%）であった。心配な内容は、性格60人、生活習慣30人、病気28人、くせ22人、発達14人、身体14人、発育13人であった。年齢別に心配の内容を示したものを表2に示す。「性格」はどの年齢でも多かったが3～4歳で特に多く、「病気」は1歳で、「生活習慣」は4～5歳で多かつ

表2 子どものもことで心配なこと
(単位 人)

	対象者人数	心配事あり	内 容 (複数回答)							
			発育	発達	身体	病気	生活習慣	くせ	性格	その他
0歳	9	3	1	0	1	0	0	0	2	1
1歳	50	21	3	0	1	8	3	2	9	4
2歳	45	19	2	3	3	5	4	1	8	5
3歳	54	24	2	3	2	6	3	5	11	6
4歳	64	22	1	4	4	4	7	4	16	8
5歳	58	30	4	4	3	4	9	4	9	4
6歳	25	13	0	0	0	1	4	6	5	1
計	305	132	13	14	14	28	30	22	60	29

表1 子どもの年齢等
(単位 人)

子どもの年齢					子どもの性別					出生順位				
	保育園	幼稚園	子育て支援事業利用者	合計		保育園	幼稚園	子育て支援事業利用者	合計		保育園	幼稚園	子育て支援事業利用者	合計
0歳	5	1	3	9	男	97	55	12	164	第1子	79	41	25	145
1歳	35	2	13	50	女	76	50	15	141	第2子	72	50	2	124
2歳	32	3	10	45						第3子	20	14	1	35
3歳	43	9	2	54						第4子	3	0	0	3
4歳	22	42	0	64										
5歳	27	31	0	58										
6歳	9	16	0	25										
無回答	15	4	4	23	無回答	15	3	5	23	無回答	14	3	4	21
計	188	108	32	328	計	188	108	32	328	計	188	108	32	328

た。

子どもが順調に育っていると思う者は272人 (82.9%), 思わない6人 (1.9%), わからない24人 (7.3%), 無回答26人 (7.9%) であった。不安がかなり強い・強いほうであると答えた86人中14人は, 子どもが順調と思わない・わからないと回答し, 不安はあまりない・ないと答えた者と比較して有意に多かった ($p < 0.05$)。

2. 利用する (利用した) 育児情報と相談相手

育児雑誌, 育児書, ビデオ, インターネット, 新聞, テレビ, ラジオ, パンフレットの8つの育児情報の利用状況を表3に示す。育児雑誌, 新聞, 育児書などが比較的多く利用されていた。インターネットは, 2歳以上の子どもをもつ親は246人中82人 (33.3%) が利用していたが, 2歳未満の場合は59人中26人 (44.1%) であった。

育児情報が「役立ったか」を尋ねた結果を

表4に示す。「とても役立った」, 「役立った」, 「少し役立った」を合わせた結果を順に示すと, 育児雑誌273人 (83.3%), テレビ265人 (80.8%), 育児書255人 (77.8%), 新聞250人 (76.2%) であった。育児情報について信頼する程度の高い順に順位をつけ, 比較のために平均順位を出してみたところ, 新聞が2.49位, 育児書2.56位, 育児雑誌2.89位, テレビ3.07位, インターネット5.26位, ビデオ5.62位, ラジオ6.14位, パンフレット6.55位の順であった。

育児に関する相談を誰にするか, 相談頻度を尋ねた結果を表5に示す。1位は夫178人 (54.3%), 以下, 父母67人 (20.4%), 友人54人 (16.5%) の順であり, この3者で9割以上を占めていた。「よく相談する相手」として1位～3位に挙げたものは夫が79.1%, 父母が67.4%, 友人が61.3%の順であった。相談した結果を表6に示す。役立った割合は, 多い順に友人87.8%, 父母80.0%, 夫77.8%であった。

表3 育児情報の利用について

(単位 人)

	利用している			利用なし	計
	よく利用	ときどき利用	たまに利用		
育児雑誌	12 (3.7%)	105 (32.0%)	174 (53.1%)	37 (11.2%)	328
育児書	11 (3.4%)	98 (29.9%)	169 (51.5%)	50 (15.2%)	328
ビデオ	8 (2.4%)	24 (7.3%)	121 (36.9%)	175 (53.4%)	328
インターネット	11 (3.4%)	21 (6.4%)	85 (25.9%)	211 (64.3%)	328
新聞	47 (14.3%)	183 (55.8%)	50 (15.3%)	48 (14.6%)	328
テレビ	29 (8.9%)	104 (31.7%)	129 (39.3%)	66 (20.1%)	328
ラジオ	0 (0.0%)	8 (2.4%)	21 (6.4%)	299 (91.2%)	328
パンフレット	14 (4.3%)	109 (33.2%)	145 (44.2%)	60 (18.3%)	328

表4 育児情報は役立ったか

(単位 人)

	利用している					利用なし	無回答	計
	とても役立った	役立った	少し役立った	役立たない	参考にならない ほうがよかった			
育児雑誌	26 (7.9%)	107 (32.7%)	140 (42.7%)	6 (1.8%)	3 (0.9%)	38 (11.6%)	8 (2.4%)	328
育児書	38 (11.6%)	113 (34.5%)	104 (31.7%)	5 (1.5%)	4 (1.2%)	45 (13.7%)	19 (5.8%)	328
ビデオ	6 (1.8%)	34 (10.4%)	75 (22.9%)	11 (3.4%)	2 (0.6%)	178 (54.2%)	22 (6.7%)	328
インターネット	19 (5.8%)	36 (11.0%)	56 (17.1%)	6 (1.8%)	0 (0.0%)	190 (57.9%)	21 (6.4%)	328
新聞	24 (7.3%)	109 (33.2%)	117 (35.7%)	15 (4.6%)	0 (0.0%)	43 (13.1%)	20 (6.1%)	328
テレビ	20 (6.1%)	115 (35.1%)	130 (39.6%)	7 (2.1%)	0 (0.0%)	36 (11.0%)	20 (6.1%)	328
ラジオ	1 (0.3%)	10 (3.0%)	32 (9.8%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	259 (79.0%)	23 (7.0%)	328
パンフレット	7 (2.1%)	34 (10.4%)	119 (36.3%)	21 (6.4%)	2 (0.6%)	123 (37.5%)	22 (6.7%)	328

3. 育児書の活用

育児書を読んだ者は277人(84.5%), 持っている者は198人(60.4%)であった。持っている冊数は1冊79人, 2冊49人, 3冊30人, 4冊9人で, 10冊以上が12人であった。

i 育児書の利用状況など

育児書を全部読んだ者は111人, 部分的に読んだ者は157人であった。育児書を読むのは, 85.9%が「必要な時」と答えた。利用したのは, 「病気やけがの対応」213人(76.9%), 「世話の仕方」144人(52.0%), 「発達のめやす」135人(48.7%), 「病気や事故の予防」130人(46.9%), 「発育のめやす」117人(42.2%), 「しつけの仕方」

111人(40.1%), 「生理的なこと」70人(25.3%)であった。

育児書を読んで「安心した」は154人(55.6%), 「不安になった」12人(4.3%), 「どちらともいえない」97人(35.0%), 無回答14人(5.1%)であった。育児書を読んで不安になった12人の理由は, 「標準値に入っていない・自分の子どもとぜんぜん違う」5人, 「知りたいことが書いてない・当てはまるものがない」2人, 「知識ばかり増えてもできるかどうか不安」2人, 「自分のやり方と違う」1人, 「病気のことがたくさん書いてある」1人, 「書いてあることが理解できない」1人であった。育児書を読んで不安になった12人のうち, 「子どものことで心配なことがある」と答えた者は10人, 「育児に対する不安は強い, 強い方である」7人, 「体調が悪い」10人であった。育児書を読んで安心した154人と, そうでない(不安になった, どちらともいえない)109人に関して, 「子どもが順調に育っていると思わない・わからない」者の割合は, 前者6.5%(10人), 後者11.9%(13人)であり, 後者の方が多い傾向がみられた。

ii 育児書どおり実施した経験について

育児書を読んだ277人中, 育児書どおりにやってみたことが「ある」159人(57.4%), 「ない」80人(28.9%), 無回答が38人(13.7%)であった。やってみた事項は「離乳食」59人, 離乳食以外の「子どもの世話」37人, 「しつけ」22人, 「病気の時の対応」21人, その他17人であった。

表5 育児に関する相談を誰にするか

(単位 人)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
夫	178	54	25	11	10	4	0	2
父・母	67	96	48	22	17	11	5	3
夫の父・母	2	14	34	32	27	17	20	19
きょうだい	8	29	35	33	26	13	9	18
友人	54	80	67	39	23	8	5	5
病院	3	11	18	34	29	33	29	20
保健センター	3	5	13	27	25	28	43	29
保育園・幼稚園	9	23	47	41	33	34	12	10
その他	2	6	3	5	3	4	5	6
無回答	2	10	38	84	135	176	200	216
計	328	328	328	328	328	328	328	328

表6 相談してどうだったか

(単位 人)

	利用している					利用なし	無回答	計
	とても役立った	役立った	少し役立った	役立たない	参考にしないほうがよかった			
夫	90(27.5%)	81(24.7%)	84(25.6%)	21(6.4%)	6(1.8%)	22(6.7%)	24(7.3%)	328
父・母	107(32.6%)	98(30.0%)	57(17.4%)	10(3.0%)	5(1.5%)	30(9.1%)	21(6.4%)	328
夫の父・母	49(14.9%)	67(20.4%)	67(20.4%)	13(4.0%)	5(1.5%)	97(29.6%)	30(9.2%)	328
きょうだい	62(18.9%)	61(18.6%)	43(13.1%)	7(2.1%)	0(0.0%)	126(38.4%)	29(8.9%)	328
友人	110(33.5%)	132(40.3%)	46(14.0%)	2(0.6%)	1(0.3%)	17(5.2%)	20(6.1%)	328
病院	55(16.8%)	106(32.3%)	55(16.8%)	9(2.7%)	2(0.6%)	73(22.3%)	28(8.5%)	328
保健センター	35(10.7%)	74(22.6%)	83(25.3%)	13(4.0%)	10(3.0%)	91(27.7%)	22(6.7%)	328
保育園・幼稚園	75(22.9%)	109(33.2%)	49(15.0%)	2(0.6%)	1(0.3%)	68(20.7%)	24(7.3%)	328
育児サークル	48(14.7%)	83(25.3%)	41(12.5%)	5(1.5%)	0(0.0%)	127(38.7%)	24(7.3%)	328
その他	15(4.6%)	34(10.4%)	56(17.1%)	6(1.8%)	4(1.2%)	2(0.6%)	211(64.3%)	328

(複数回答)。育児書どおりにやっとうまくいったのは109人(68.5%), うまくいかなかったのは33人(20.8%), 無回答が17人(10.7%)であった。うまくいった者の中で自信がついた者は61人(56.0%), つかなかった者は2人(1.8%), どちらともいえない者が42人(38.5%), 無回答が4人(3.7%)であった。うまくいかなかった時は、「自然に任せた」7人, 「自分流にやってみた」6人, 「あきらめた」5人, 「気にしない」2人, 「育児書を読まないことにした」2人, 「誰かに相談した」1人, その他3人, 無回答7人であった。

育児書どおりに行わなかった理由について44人が記載しており, 「自分の考える育児をしたい」15人, 「個人差があると思った」11人, 「参考になることがなかった」10人, 「まわりの人に聞いて確認した」3人, 「忙しくて余裕がない」2人, 「面倒」2人, 「上の子どもの経験で」1人であった。

iii 育児書を読んで子育てに対する気持ちが変化したが『育児書を読んで子育てに対する気持ちは変わりましたか』に対しての回答は31人のみであり, 「幼児期の大切さ, ほめて育てることの大切さ, 自分中心の育児を反省」など, 子どもの立場に立って子育てをする大切さを認識した者が13人, 「神経質にならず, おおらかに, あせらず, ゆったりと」など, 子育てに対する気持ちが楽になった者が9人, 「気持の変化はない」と答えた者が9人であった。

自由記載欄に, 166人が育児書に対する感想を記載していた。「役立った, 安心できた」等, プラスになったという感想が81人(48.8%), 「振り回された, まどわされた」など, マイナスになったという感想が13人(7.8%), 「参考にしながら自分の育児をする」などの育児書を判断材料の一つとする意見が72人(43.4%)であった。

4. 子育てをしながら, 感じていること

『最近のお子さんの様子をお書きください』という自由記載の欄には, 267人(81.4%), 『お子さんと接しながら発見したこと, お子さんを持って感じていることを自由にお書きください』という自由記載の欄には, 207人(63.1%)

が記載していた。

子どもの成長の様子が生き生きと表現され, 愛情や幸福感, 子どもの言動による気づきや成長に対する驚き, わが子を誇りに思う気持ち, 子育てに奮闘している様子などが豊かに書かれていた。また, 子育てを通して交流が広がり, 社会のさまざまな問題や自分自身の生き方にも目を向けるようになったこと等, 子どもを持ったことへの感謝や喜びが書かれていたが, 子どもを否定的に捉えたり育児に悩んでいると思われる記載が7人にあった。

IV. 考 察

今回, 子育て中の親を対象に育児情報の活用に関する調査を行った。多くの母親は, さまざまな育児情報を参考にし, 身近な者に相談しながら, 自分の考えを持って, 子育てに取り組んでいた。育児書は育児情報の中で比較的信頼され, 比較的よく利用されており, 役立ったと感じている者が多かった(77.8%)。「病気やけがの対応」のために利用した者が最も多く(76.9%), 「病気やけがの対応」は親の最も大きな心配事, 関心事であると考えられる。育児書を読んで, 安心した者が55.6%, 育児書どおりにやってみたことがある者は57.4%, 育児書どおりにやって自信がついた者56.0%と, 親たちは育児書を参考にして育児を行い, 自信をつけていた。子育ての知識や技術が伝わり伝えにくくなった今日, 育児書は親たちにとって, 最も参考になるものの一つであるといえる。育児書どおりに行わなかった親(28.9%)は, 育児書以外の方法を選択する力を持っていたと考えられる。育児書どおりにやっともうまくいかなかった者20.8%(33人)も, 自然に任せる, 自分流にやってみる, あきらめる等の行動をとっていた。自由記載欄に書かれた感想からも「参考にしながら自分の育児をする」など, 43.4%の者が子どもの成長の把握, 育児方針の決定や対処方法の選択の際に判断材料の一つとして育児書を活用し, 主体的な育児をしている様子がうかがえた。しかし, 「育児書に書かれていることを正常, 一般的ととらえ, 自分の子が異常ではないかと心配になった」などの理由で, 育児書により不安になった者も4.3%(12人)いた。

上手に育児書を利用している人に比べると少数であるが、この親たちが不安なく、より良い子育てができるように支援する必要がある。

川井らの研究によると、0～2歳の子どもを持つ母親の育児不安の因子として「不安・抑うつ感」と「育児困難感」が抽出されていた³⁾。今回の調査でも、育児への不安がかなり強い・強いほうであると答えた者が26.2%あり、不安がかなり強い・強いほうであると答えた者に体調不良の者や、子どもが順調に育っていると思えない者も多かった。また、育児書を読んでも安心できない者にも、子どもが順調に育っていると思えない者が多かった。不安がある、体調が悪い、子どもが順調に育っていると思えない等の訴えに加えて、育児書を読んでも安心できない親の中にも、ていねいな支援を必要とする親が存在していると考えられる。保健師は乳幼児健康診査や育児相談、予防接種での来所など、親と接することができるあらゆる場面で、このような親たちにていねいな支援を開始できるように、細やかな気配りをしなければならない。

今回の調査結果では、子育て中の親が利用する育児情報は、育児雑誌、新聞、育児書などが比較的多く、信頼度も高かった。保健師は、これらの情報にアンテナを張っておく必要がある。子育て中の親は育児書と同じくらい新聞を読んでおり、新聞の情報を信頼していた。このことを心に留め、報道されるニュースや話題を知っておくこと、また、その内容が与える影響を考えながら子育て支援に携わる必要がある。

子育てに関しての相談相手は、夫、両親など身近な家族が多かった。子育てについて一緒に考えることで絆を深め、家族として成長しているように支援することも大切である。

親は子どもとの生活を通して学んでいることも多い。自由記載の欄に書かれた内容から、親は子どもの発達を的確にとらえ、子どものために必要な対応を模索している様子がうかがわれた。子育てに一生懸命取り組み、子育てを通し

て、豊かな感性、感謝や優しい気持ち、広い視野、責任感などを持つようになり、自分自身の生き方を見直している親の姿があった。保健師は、親がわが子と過ごしてきた時間の中で育ててきたことを、大切にしながら関わる必要があると考える。子育てに対して親が真剣に取り組んでいることを前提に、そして、わが子に愛情を持ち、わが子を誇りに思っている親の気持ちを尊重して、親と接することが大切と考える。

今回の調査では回収率は42.1%であり、施設によって72.7%～28.3%と差があった。調査結果として述べてきたことは、すべての親の状況をあらわしたものではなく、回答した親の状況であることを心得ておかなければならない。今回の調査では、育児情報の利用に関することに焦点を当てたため、一括して集計し、結果を出した。子どもの年齢によって、また、幼稚園と保育園など、異なった背景を持つものでは、子育ての状況は異なり、結果も違ってくると予測される。年齢を絞ったり、施設別に研究していくことも必要と考える。今後の課題としたい。

謝 辞

調査にご協力いただいた保護者に深謝いたしますとともに、研究・論文作成にあたり、ご指導いただいた東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科高野陽教授、国立成育医療センター成育政策科学研究部加藤忠明部長に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 井上ひとみ, 3歳および5歳児の事故防止に関する調査, 日本看護学会論文集 小児看護, 1999: 30: 148-150.
- 2) 田中哲郎, 石井博子, 向井田紀子: 子どもの疾患に関する保護者の理解度, 小児科臨床, 2001: 1: 96-102.
- 3) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子: 育児不安に関する基礎的検討, 日本総合愛育研究所紀要第30集, 1994: 27-39.